

**御殿場市観光戦略プラン**  
**(平成 28 年度～平成 32 年度)**

**平成 28 年 3 月**  
**御 殿 場 市**

# 御殿場市観光戦略プラン

目次	1
【計画編】	2
1. 御殿場市観光戦略プランの策定について	3
2. 御殿場の観光を取り巻く状況	4
3. 御殿場市観光ハブ都市構想	6
4. 御殿場の観光振興の目指す姿	6
5. 基本戦略	7
6. 観光戦略プランの体系図	8
7. 戦略の展開	9
基本戦略1 御殿場らしい観光スタイルの確立	10
基本戦略2 観光ハブ都市機能の強化	26
基本戦略3 人が集まる受け入れ体制の充実	31
8. 計画の推進体制	38
【調査編】	40
1. 市民意識調査	41
2. 観光客満足度調査	82
3. 観光事業者ヒアリング	88
4. 観光バス聞き取り調査	90

# 【計画編】

---

# 1 御殿場市観光戦略プランの策定について

## (1) 観光戦略プラン策定の背景

本市は、観光の振興が、交流人口の拡大や地域経済の活性化の柱となる政策であり、観光を軸としたまちづくりを持続的・戦略的に進めていくために、市民、企業、行政等、観光に関わる全ての人々の行動の指針を打ち出すものとして、平成20年度に平成27年度までを計画期間とする「御殿場市観光戦略プラン」を策定しました。

この度、第四次御殿場市総合計画前期基本計画のスタートに合わせてとともに、社会情勢の変化に対応するため、これまでの観光戦略プランを見直し、新たに策定したものです。

## (2) 観光戦略プランにおける観光振興の意義

○観光振興は、市内の多くの産業に影響し、新しい事業や雇用を創出するものです。現在も大勢の人々が本市に來訪していることから、本市の観光は、地域の産業経済の活性化や地域のイメージアップ、PRに大きく貢献しているといえます。

○観光振興は、地域を商品とするものであり、市民にとっても固有の歴史や文化と向き合い、見直す機会にもなります。観光の振興策の実行は、その過程で地域への愛着や誇りの醸成、地域の新たな魅力創造等、文化的な影響も期待できます。

○観光振興は、御殿場らしさをアピールし、地域の特色を出す有効な手立てとなります。観光振興によって創出され高められる本市の価値や魅力は、余暇や休養を求める人々を惹きつけることに加えて、本市への定住促進や産業立地などにも大きく貢献していくものとなります。

○観光振興は、市民をはじめ企業や団体、有識者や専門家が一体となって進められるものです。全市的な取り組みを行っていく過程で、市民一人ひとりが主体的に行動していくことにより、本市全体の地域活力の高揚につながります。

## (3) プランの計画期間

今回、見直し策定する御殿場市観光戦略プランの計画期間は、第四次御殿場市総合計画前期基本計画との整合性を図り、平成28年度～平成32年度の5か年とします。なお、計画期間中にプランの進捗状況について観光懇話会等で検証し、必要に応じてプランの見直しを行います。

## (4) 5年後の目標値

	基準値 (平成26年)	目標値 (平成32年)	出典
観光交流客数	1,411万人	1,500万人	静岡県観光交流の動向 (静岡県)
宿泊客数	95万人	120万人	静岡県観光交流の動向 (静岡県)
外国人宿泊客数	15,473人	20,000人	宿泊旅行統計調査 (観光庁)

## 2 御殿場の観光を取り巻く状況

### (1) 社会情勢の変化等

#### 1 高度情報化社会の進展

情報通信技術の高度化（高速化・大容量化）の進展は著しく、それを活用した新しいサービスが次々と開発・提供されています。平成26年末時点において、我が国でインターネットを利用している人（インターネット普及率）は8割を超えています。また、スマートフォンや携帯型タブレット端末の普及により、インターネットが国民にとって大きな利便、恩恵をもたらす生活の必需品になっていると言えます。観光面においても、旅行関連サイト等からの観光情報の収集や宿泊予約などが一般化し、今後その活用はますます多様化していくことが予想されます。特に、外国人観光客への対応として無料W i - F iなどの公衆無線LAN等の環境が整った施設整備や多言語での標識案内等が重要となります。

#### 2 外国人観光客の増加

情報、経済、交流等、さまざまな分野・活動において世界規模での拡大が進んでいます。観光面では、日本からの海外旅行者が、ここ数年の平均として1,700万人前後で推移しているのに対し、海外からの訪日外国人旅行者は、平成26年は1,341万人と過去最高を更新しています。国の訪日促進キャンペーンの効果や、羽田空港の再拡張・国際化、東南アジア諸国に対する査証緩和・免除の措置等により、今後も訪日外国人旅行者は一層増加していくことが予想されます。外国人観光客は主にツアーによる団体客が多い中で、例えば中国人の富裕層等といった個人観光客も増加しています。

また、富士山静岡空港が中国との定期就航便を増やしており、中国からの観光客がさらに増加することが見込まれます。

#### 3 環境問題に対する関心の高まり

今日、地球温暖化、自然資源の大量消費、生態系の破壊等、地球規模での環境問題が顕在化する中、環境への負荷を考慮した行動様式や社会システムが強く求められています。観光においても、自然体験、環境学習等を通じて、自然や文化に対する理解を深めるエコツーリズムやグリーンツーリズム等のニーズが高まっています。

#### 4 御殿場を取り巻く環境の変化

全国的に訪日外国人観光客が増加する中で、箱根・富士五湖・伊豆を周遊する過程で御殿場に立ち寄る外国人観光客が増加しています。これらの集客拠点や国を挙げての訪日促進がもたらす観光交流客数の増加を生かし、本市の観光振興に結びつけていくことが求められます。さらに、観光連携協定市（浜松市）、観光交流協定市（熱海市、伊豆市）をはじめとした広域観光エリアとの連携を強めていくことも求められます。

また、富士山静岡空港や新東名高速道路をはじめとする交通インフラの整備、富士山、韮山反射炉の世界遺産登録、そして、2019年ラグビーワールドカップ日本開催、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催が決定し、国内外からさらに交流人口が増加することが期待されます。

## (2) 観光動向

### 1 我が国の観光動向

平成27年度版の観光白書によると、平成26年における日本からの海外旅行者は、約1,690万人であり、円高の影響で過去最高を記録した平成24年よりは減少しておりますが、ここ数年は1,700万人前後で推移しています。年によって増減はあるものの、リーマンショック以降基本的に同程度の水準をキープしているといえます。

一方、平成26年の海外からの訪日外国人旅行者は約1,341万人で、初めて訪日外国人旅行者が1,000万人を超えた前年よりさらに29%の増加と、過去最高を大幅に更新しています。

### 2 静岡県の観光動向

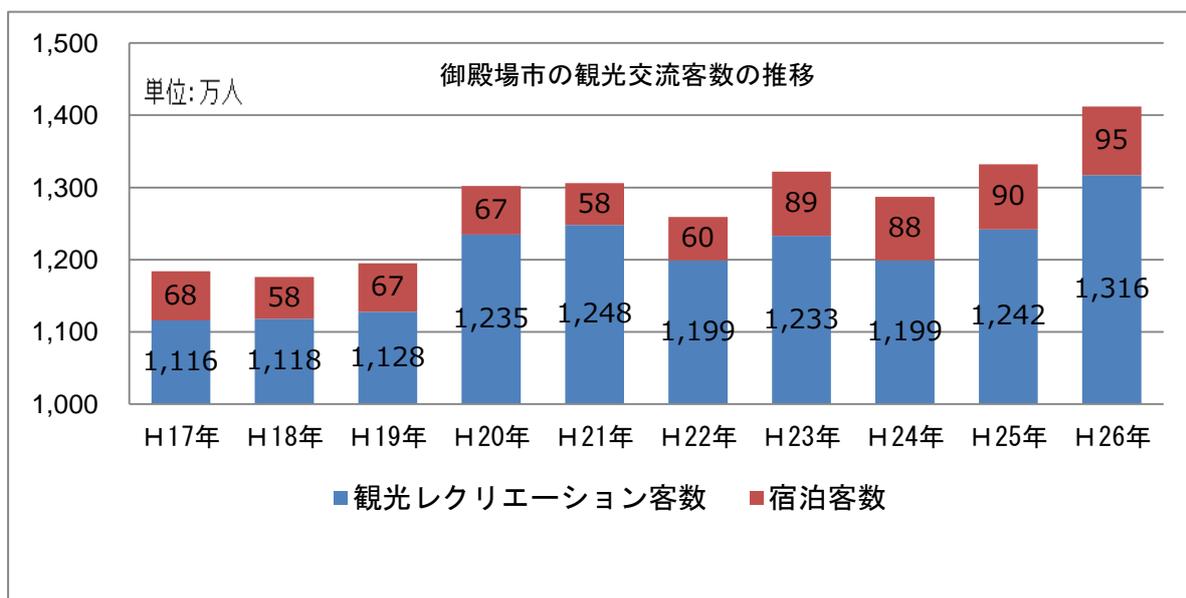
静岡県の平成26年度の観光交流客数は1億4,793万人で、前年比2.0%増の過去最高となりました。東駿河湾環状道路や圏央道の開通による伊豆地域へのアクセスの向上、浜名湖花博2014の開催等がその要因として考えられます。

一方、宿泊客数については、平成26年度は1,881万人であり、前年比3.2%増でしたが、ピーク時（平成3年）に比べると7割弱という数字になっています。

### 3 御殿場市の観光動向

近年の本市の観光交流客数は、御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場高原時之栖等の集客拠点への集客数は増加しており、静岡市、浜松市について県下第3位の規模を維持しています。

本市の平成26年度の観光交流客数は1,411万人（宿泊客数95万人、観光レクリエーション客数1,316万人）で、平成25年度と比較して約6%の増加となっています。宿泊客数、観光レクリエーション客数ともに増加しており、周辺市町と比較しても観光交流客数の伸び率は大きいといえます。



### (3) 本市の観光課題

富士山世界遺産登録後も、ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の国際スポーツイベントの国内開催が決定し、特にオリンピックにおいては県内で自転車競技の実施も決まり、海外からさらなる観光客の増加や愛好家等の来訪が予想されます。同時に、市外では伊豆縦貫道路や圏央道、市内では新東名高速道路（仮称）御殿場インターチェンジや国道138号バイパス、それらに関連したアクセス道路等、交通インフラの整備が進んでおり、人の往来や流通はより変化していくものと考えられます。

このような状況をいかに活用していくか、また、JR御殿場線や高速バス等の公共交通機関の利活用促進を図りながら観光振興施策を展開していくかが大きな課題となります。

## 3 御殿場市観光ハブ都市構想

### (1) 目標とする観光ハブ都市像

本市は、富士箱根伊豆観光交流圏の中にあつて地理的に中間に位置し、東名高速道路・国道138号・国道246号等の南北軸と東西軸の基幹道路が交差する交通の要衝であります。このような地理的優位性、交通利便性の強みを生かし、本市を訪れた観光客が滞留した後、周辺のまちへ足をのばす際の出発地となり、中継地となり、若しくは周辺を観光し本市をゴール地とするよう、いずれの場合にも必ず本市に立ち寄り滞留してもらう観光スタイルを目指します。

### (2) 観光ハブ都市構想の推進の取り組み

#### 1 滞留型観光の推進

本市を訪れる観光客を市内全域に回遊させ、滞留、滞在させることで、地域の賑わいを創出し、経済の活性化に繋がります。そのために民間活力を導入し、既存の観光資源のネットワーク化を進め、新たな観光商品・御殿場ブランドを開発し、魅力ある観光のまちを創出します。

#### 2 広域連携の強化

富士箱根伊豆観光交流圏の中間点に位置する当市の地理的優位性・交通利便性を生かした観光交流の推進を図るため、周辺市町村との連携、県域を超えた広範囲の自治体等との連携、全国的に主要な周辺の観光エリアとの連携を推進し、観光ハブ都市としての機能を高めます。

## 4 御殿場の観光振興の目指す姿

### 「富士山麓御殿場リゾート」

○富士山や箱根外輪山の豊かな自然環境や景観を生かし、観光ハブ都市として発展することで、人に選ばれ、人が集い、滞留し、訪れた方々の心と体を癒し、愛される観光のまちを目指します。

## 5 基本戦略

### (1) 御殿場らしい観光スタイルの確立

富士山世界遺産登録、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定等により、本市を含む富士山周辺に求められる観光交流の期待は高まっています。また、全国的に定住人口の減少が進むなか交流人口を増やしていくことが求められ、地域らしさのある観光の魅力づくりが重要となります。

このため、富士山の眺望やハイキング、ゴルフ、乗馬等のスポーツ環境を生かした地域の魅力を高めるとともに、集客性のあるイベントの開催や新たな観光資源の発掘、創出により、御殿場らしい観光スタイルの確立に取り組みます。

### (2) 観光ハブ都市機能の強化

本市への観光交流客数は、観光ハブ都市機能の進展により順調に増加し、箱根や富士五湖を周遊する観光客も増えています。また、新東名高速道路（仮称）御殿場インターチェンジの開設、国道138号バイパス等の交通インフラの整備が平成32年までに完了する予定であることから、今後も観光交流客数の増加が期待されています。

このため、広域的な交通の要衝である利点をさらに生かすとともに、市内の観光資源を楽しむことのできる魅力を高め、効果的に発信していくことで、広域的な観光の中心となる観光ハブ都市の確立に向けた都市機能の強化に取り組みます。

### (3) 人が集まる受け入れ体制の充実

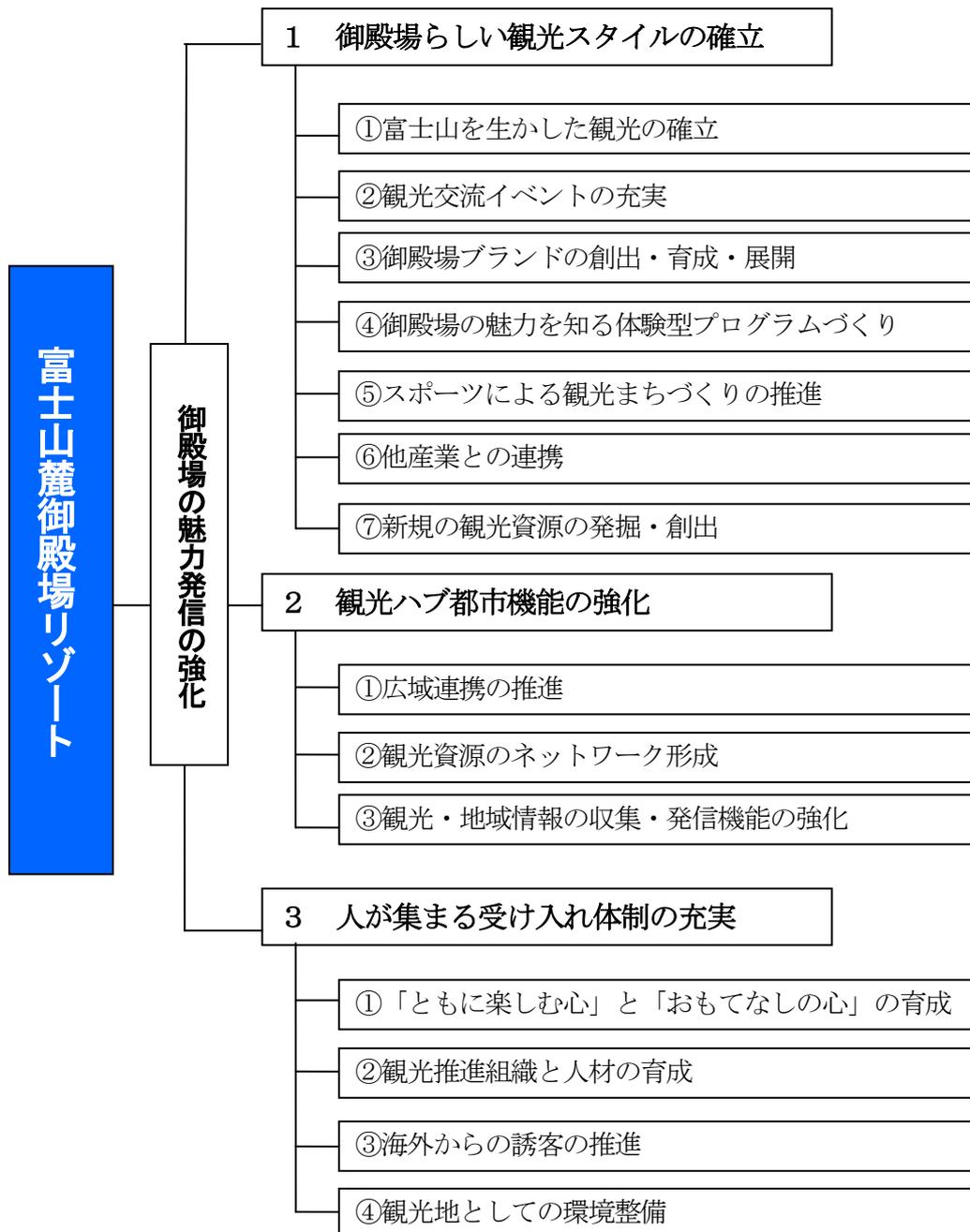
本市の観光交流客数は順調に増加していますが、今後においても社会情勢の変化に的確に対応し、効果的な誘客施策を展開することにより、さらに交流客数の増加を図る必要があります。

また、訪日外国人観光客は急増し、本市においてもアジアをはじめとする諸外国からの観光客がさらに増加することが予想されます。

国内外からの来訪者の増加に対し、公共交通の利便性向上やユニバーサルデザインへの対応等、受け入れ環境を整えていく必要があります。

そのため、御殿場らしさの魅力を高めるとともに、国際性のある対応力を持ち、市民一人ひとりがおもてなしの心でお迎えする受け入れ体制の充実に取り組みます。

## 6 観光戦略プランの体系図



## 7 戦略の展開

○3つの基本戦略に基づき、御殿場の観光振興を戦略的に展開していくために必要な施策を整理します。なお、具体的な取り組み内容については、その実施過程において柔軟に対応していくべきものとなります。また、プランの進捗状況について、計画期間中に進捗状況を観光懇話会等で検証し、必要に応じて見直しを行います。

○施策の展開にあたり、主に関係する主体については、

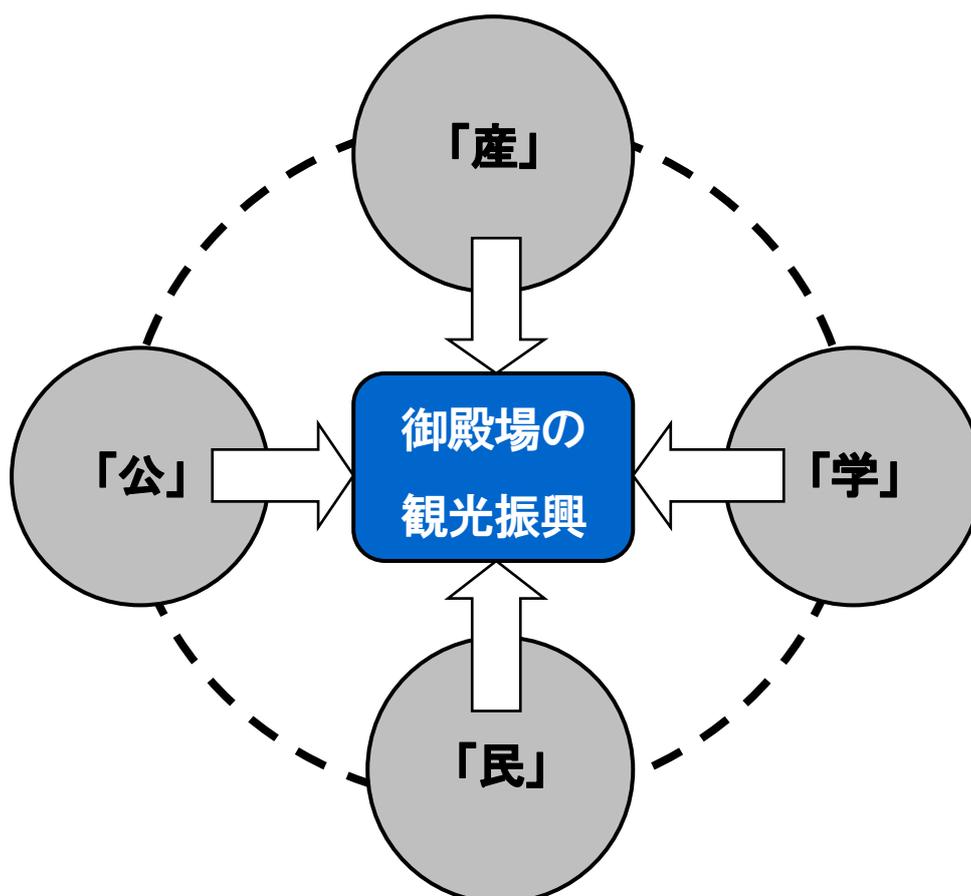
「産」（商工団体、観光協会、交通事業者、旅行事業者、施設事業者、企業、個人商店、農協等）、

「学」（専門研究機関、有識者・専門家等）、

「民」（市民、NPO法人、ボランティア団体等）、

「公」（市、近隣自治体等）

の4区分とし、その中で取り組みの中心となる主体を「◎」、支援・協力する主体を「○」とします。



施策 1-①【富士山戦略】富士山を生かした観光の確立

【展開の方向性】

- 富士山を最大限に生かした観光誘客を図ります。富士山そのものと、富士山がもたらす恵みとを本市の観光の核として戦略的に発信、展開していきます。また、世界遺産としての富士山の顕著な普遍的価値を後世に保全、継承するとともに、積極的に誘客活動に取り組みます。
- 大砂走りやプリンスルート、宝永山、双子山を含む周辺ハイキングコース等、他の登山口にはない特長を備えた富士山御殿場口をさらに魅力溢れるものにし、御殿場だけの富士山の楽しみ方を強力に発信していきます。
- 富士山という貴重なロケーションと本市の特長を最大限に生かした誘客イベントの実施、誘致を推進します。
- 富士登山の拠点であり、年間数万人が訪れる御殿場口新五合目について、「世界文化遺産富士山五合目のあり方」（価値を守る、価値を伝える、価値を安全に味わう）を踏まえつつ、御殿場口の制約、特徴に応じた整備を検討、実施し、さらなる活性化を目指します。特に、利便性向上のための施設の充実やユニバーサルデザイン化、現地へのアクセス向上を推進します。
- 富士山への来訪者が市内にも回遊するよう、温泉や市内観光施設、地元商店等と連携し、ストーリー性を持たせた観光ルートの開発を進めることで、富士山と本市が一体となる観光振興を目指します。
- 来訪客が富士山を安心安全に楽しめるよう、関連施設、遊歩道等の保全管理を行います。また、現地での安全啓発や、防災対策を推進します。
- 本市からの富士山の眺めは、その雄大さや美しさから特別であるという認識のもと、御殿場ならではの眺めとして磨きをかけていくとともに、本市の観光の重要な資源として、保全と活用を図ります。
- 富士山樹空の森を、富士山観光と効果的に結び付けることにより、本市を代表する観光資源とすることを目指します。

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 富士山御殿場口への誘客	①御殿場だけの富士山の楽しみ方の提案・創出とプロモーション、他登山口との差別化(大砂走り、プリンスルート、トレイルランニング、スカイランニング、ハイキング、マイカーでの来訪可、富士山から望む駿河湾及び相模湾 等)	◎		○	◎
	②誘客イベントの開発・誘致と実施(マウントフジトレイルステーション設置運営、各種ツアー・体験型プログラム等の開催、登山者おもてなし給水 等)	◎	○	○	○
2. 富士山御殿場口新五合目の活性化・整備	①アクセスの利便性・柔軟性の向上(バス路線の増加、周辺観光施設を巡るバス路線開発、タクシー協会との連携 等)	◎			○
	②施設の充実(新五合目トイレの整備、案内所・救護所・警察詰所の設置及び24時間対応化の検討 等)	○			◎
	③施設や案内表示のユニバーサルデザイン化(多言語表記、バリアフリー化 等)	○			◎
3. 富士山から市内への誘客	①富士山来訪者の市内回遊の促進(新五合目や山小屋での観光案内、観光・温泉・宿泊施設・商店との連携 等)	◎		○	○
	②富士山関連施設・資源の活用(新橋浅間神社、印野の溶岩隧道、駒門風穴の紹介・案内強化、相互利用推進 等)	◎		○	○
	③モデルコースの設定 (ア：富士山を知って学ぼうコース 富士山樹空の森、印野の溶岩隧道、新橋浅間神社、湧水スポット イ：富士山の恵みを味わおうコース 温泉、御殿場みくりやそば、ウイスキー、水かけ菜、わさび田 ウ：富士山を撮影しようコース 各眺望地点 等)	◎	○	○	○

4. 富士山御殿場口周辺及び関連資源の保全管理・安全対策	①下山道、ハイキングコースの保全と改良 ②登山者への安全啓発 (現地指導、富士山ナビゲーターの設置、広報媒体における注意喚起 等) ③現地での安全対策 (防災訓練の実施、防災用品の配備 等)	○ ◎ ○	○ ○ ○	◎ ◎ ◎	◎ ◎ ◎
5. 良好な富士山の眺望の整備・活用	①ハイキングコースや里山景観と絡めた眺望地点の整備 (富士山眺望遺産 等) ②富士山を背景とした良好なまち並みの形成 (総合景観条例、景観形成ガイドプラン 等) ③眺望を生かした誘客 (撮影スポットの整備・PR、モデルコースの設定・広報 等)	○ ◎	○ ○	◎ ◎	◎ ○
6. 富士山樹空の森の積極的利活用	①富士山来訪者の取り込み戦略 (バス路線新設の検討、案内・看板の充実 等) ②自然環境や施設を生かした特色ある事業の実施 (ACO CHILL、富士山太鼓まつり、各種展示 等) ③常設施設の利用者数増加に向けた取り組みの検討	◎ ◎ ◎	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○



マウントフジトレイルステーション



富士山樹空の森

## 施策1-②【イベント戦略】観光交流イベントの充実

### 【展開の方向性】

- 観光交流イベントとは、来訪者にとっては御殿場の魅力に触れる機会となり、市民にとっては自分のまちへの理解を深め愛郷心を育む機会となります。御殿場を代表する「御殿場わらじ祭り」や「富士山太鼓まつり」等の観光交流イベントを充実させ、参加者が御殿場の歴史や文化、風土に触れ、まちをより身近に感じ、より詳しく知ることができる機会を提供します。
- イベントの実施には市民の参加が不可欠であり、情報発信を充実させ認知度を上げることで市民の積極的な参加とイベントの規模の拡大を目指します。同時に市民のニーズを捉え、反映させることでイベントの活性化を図ります。
- イベントの充実、改善のために、定期的に議論する機会を設け、イベント終了後にも企画や運営等について多く市民の意見を収集する体制を整えます。そこで得られた意見を反映し、変化や新規性を取り入れることで、より高い満足度を得られるような運営を進めます。
- 個人の価値観やライフスタイルが多様化し、共通の趣向を持った人々が集まることによりイベント化するという事例が増えつつあります。多様化するニーズを把握するための情報収集に努め、内容やターゲットを絞る等の工夫を加えることで、新規イベントの可能性を探ります。

### 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 既存イベントの充実	①情報発信の工夫（一元的なサイトの充実、定期的な更新、SNSの有効活用、イベント間の連携 等）	◎		○	○
	②地域・企業との協力体制、ボランティア育成等の運営体制の整備	◎		○	○
	③イベントの改善を継続的に実施する体制の整備（アンケート調査、口コミ情報の収集）	◎		○	◎
2. 新規イベントの誘致・支援・開発	①民間主体のイベントを活性化させるための環境整備	◎			○
	②新規イベント提案のための情報収集と分析	◎	○	○	◎
	③独自性を持ったイベントの検討（御殿場らしさに焦点を当てたイベント、内容やターゲットを絞ったイベント 等）	◎		○	◎

## 施策1-③【ブランド戦略】御殿場ブランドの創出・育成・展開

### 【展開の方向性】

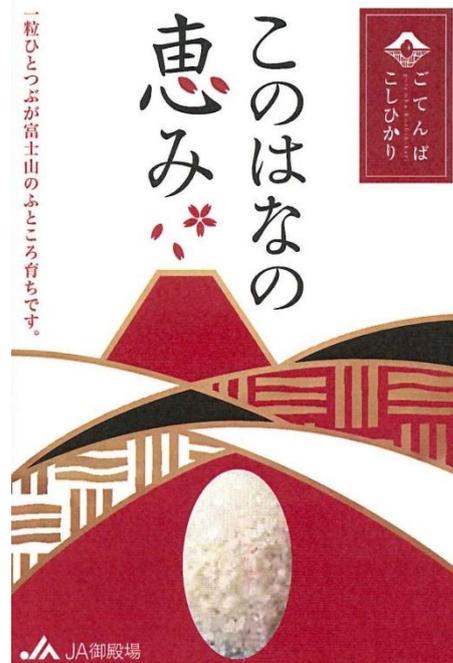
- 御殿場というまち全般に関わるブランド形成について、富士山の雄大さや豊かな自然などの御殿場のイメージを大切にしたい取り組みを推進し、本市の魅力を表現するための統一感のあるネーミングの作成等により、認知度やイメージの向上を図ります。
- 本市の優れた自然環境を象徴する「水」、「緑」を生かしたブランド商品の開発、PRを進めるとともに、湧水や市民の森など「水」、「緑」に関連する観光情報やイメージの発信を進めます。
- 御殿場わらじ祭りの起源となったわらじ作りの歴史を後世に継承し、御殿場といえば「わらじ」というイメージを確立するため、イベントの充実と併せてPRを行います。
- 徳川氏御殿造営400年を契機とした本市の伝統芸能の掘り起こし作業を進め、市民が伝統芸能や文化に触れる機会を設けるとともに、将来のブランドとなりうる物を創り出す施策を検討します。
- 特産品の開発等について、商品づくりの背景となる明確な本市の観光イメージを構築し、魅力発信戦略と合わせて、ブランド化を展開していきます。
- 本市にある、世間に広く知られていない隠れた特産品や匠の技を掘り起こし、PRを推進します。
- 観光資源、歴史遺産が集中する東山・二の岡地区について、別荘文化の再評価や食文化を活用した万国村再生計画等によるブランド化を進めます。
- 商品づくり、販路拡大、広報等を総合的に捉えた観光マーケティングの発想に立って取り組みを進めることが重要であり、また、観光客のニーズの変化に対応していくためには、地域（地元事業者や市民等）の主導的な役割が欠かせないことから、ブランド形成に関わる各主体の連携を強化する取り組みを進めます。
- 「御殿場みくりやそば」、「ごてんばこしひかり」、水かけ菜、ハム、ソーセージなど、御殿場ならではの地場商品、既存ブランド商品のさらなる育成と、新たなブランド商品の開発を行います。

【具体的施策】

施策	内容 (例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 御殿場ブランドのイメージ形成、PR	①ブランドイメージの強化 (共通イメージの形成、ネーミング、キャッチフレーズ等)	○	○	○	◎
	②観光親善大使や富士娘の活用	◎			○
	③市民や来訪者が、御殿場ならではの文化や伝統芸能に触れることができる機会の創出 (御殿場わらじ祭り、徳川氏御殿造営400年等)			◎	○
2. 新規ブランド製品の開発	①事業者、市民、外部専門家等との協働によるブランド製品の開発、観光資源の商品化	◎	○	○	○
	②東山・二の岡地区のブランド化の推進			○	◎
3. ブランド製品の販売促進	①販路拡大の支援 (御殿場みくりやそば、ごてんばこしひかり、水かけ菜、ハム、ソーセージ等)	○			◎
	②販売施設の整備の検討 (駅周辺、道の駅等)	◎			○



御殿場みくりやそば



ごてんばこしひかり

## 施策1-④【体験型プログラム戦略】御殿場の魅力を知る体験型プログラムづくり

### 【展開の方向性】

- 近年増加傾向にある地域の特性を生かした体験型プログラムによる観光として、富士山のトレッキングやハイキングだけでなく、富士山樹空の森や駒門風穴、印野の熔岩隧道（御胎内）等の関連施設を利用した、歩くだけではない五感を通して富士山を学ぶ機会を提案します。
- 本市は、富士山や箱根の山々に囲まれ豊富な自然に恵まれており、それらを生かしたコンテンツも多くあります。また、首都圏から一時間程度で訪れることができる利便性の高さから、年間を通して多くの来訪者があります。既存の施設やイベントの、より魅力的な情報を発信することにより、首都圏からの誘客拡大を図ります。
- 体験型プログラムには、体験を通して対象の歴史や背景を学ぶという教育的な側面があります。現在も体験学習や野外授業で多くの子どもたちが本市を訪れていますが、引率する教育関係者の関心を引きつける体験型プログラムを提供することで、その後の裾野の拡大と継続的な誘客を目指します。
- 富士山の湧水は希少なものであり、商品として販売されている他、県外からそれを目的に立ち寄る人が多くいます。また、それを使用することにより数多くの名産品が生まれています。自然の賜物である湧水を中心とした御殿場ならではの体験型プログラムを提案します。
- 2019年にはラグビーワールドカップの日本開催、2020年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しています。すでに全国各地で盛り上がりの気運が醸成されつつあり、本市においても事前キャンプ誘致を進めている中、トークショーや体験学習会、パブリックビューイング等の関連するコンテンツを提供します。
- 体験型プログラムは、季節に応じた内容が提供でき、継続的な誘客が期待できます。一年を通して実施するには、一括した窓口や受け入れ体制が必要となります。窓口や体制を整備することでスムーズに受け入れを進め、参加者がより満足感を得られ、再度参加したくなる体験型プログラムの提供を目標とします。

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 富士山を中心とした体験プログラムの整備	①富士山のトレッキングコース・ハイキングコースの整備			○	◎
	②富士山の歴史を学ぶ機会の創出(富士山樹空の森、駒門風穴、印野の熔岩隧道 等)	◎		◎	○
	③富士山の歴史や自然を熟知したガイドの育成と活用		○	◎	○
2. 既存の施設やイベントによる誘客	①施設との協力体制の整備(乗馬、ゴルフ、収穫体験 等)	◎		○	○
	②広報の強化(施設やイベントの意見収集、商談会の利用 等)	◎		○	◎
	③新規プログラムの提案(ロケツーリズム等)	◎		○	○
3. 教育的側面による誘客の拡大	①子どもだけでなく大人も満足できる学習的プログラムの作成	◎			○
	②プログラムを反映したツアーの作成と提案(富士山の自然を学ぼう、御殿場の歴史を知ろう 等)	◎		○	○
	③他市町村との連携による内容の充実・拡張	◎			○
4. 湧水を中心としたコンテンツの作成	①名産品を巡るツアーの提案(ごてんばこしひかり、御殿場みくりやそば 等)	◎		○	○
	②名産品を生み出す湧水を知る機会の提供(湧水の通り道を辿る、湧水に触れる 等)	◎		○	○
	③そば打ち体験	◎		○	○
5. スポーツと連携した体験の提案	①スポーツのルールや面白さを知る機会の提供(トークショー、講演会 等)	◎	○	◎	○
	②体感することによる興味や関心の喚起(体験教室、選手との合同練習 等)	○	○	◎	○
	③多くの人で観覧し、感情を共有する場所の提供(パブリックビューイング、施設で実施される試合の応援ツアー 等)	◎		◎	○

6. 体制や制度の整備	①季節に応じたプログラムの情報提供と案内体制の整備（夏山を歩こう、秋の森を乗馬で巡ろう 等）	◎		◎	○
	②参加者が快適に参加できる受け入れ体制の整備	◎		◎	○
	③アンケートや口コミ投稿等の情報収集とそれらを反映や改善する体制の整備	◎		◎	○



あぜみちウォーキングの様子

## 施策1-⑤【スポーツツーリズム戦略】スポーツによる観光まちづくりの推進

### 【展開の方向性】

- スポーツは、「観る」「する」「支える」等多彩な参加形態を持ち、本市が目指す滞留型観光を推進するためにもスポーツによる交流人口の増加を図り、本市の環境にあったスポーツツーリズムを促進することでスポーツによる観光まちづくりを推進していきます。
- 本市にはスポーツレクリエーション施設（ゴルフ場、乗馬施設、フィッシングエリア、キャンプ場等）が数多く点在しており、隣接する町には富士スピードウェイ等もあることに加え、富士山の麓で体を動かす付加価値のある恵まれた環境のため、ゴルフ、乗馬、サッカー、ラグビーをはじめとする民間スポーツ施設を利用した体験型観光の促進やスポーツ合宿の誘致を進めます。また、馬術・スポーツセンター等の公共スポーツ施設を活用し、スポーツ合宿はもちろん、国際、全国大会レベルのスポーツ大会の誘致、支援を推進します。
- 本市の地理的な特徴を生かしたクロスカントリーコースを整備する等、トレーニングの合宿拠点として活用される可能性を検討し、スポーツツーリズムの推進を図ります。
- 国内最大規模のスポーツイベント（三井住友VISA太平洋マスターズ、モータースポーツPRイベント、ウルトラトレイルマウントフジ等）が継続して本市で開催されるように大会を支援し、さらに富士登山駅伝競走大会等の本市が誇る伝統的なスポーツイベントをさらに盛り上げ、支援をしていく他、大会を「観る」来訪者の誘客促進を図るため、おもてなしの充実や周辺観光施設との連携を図ります。また、スポーツボランティア等が活躍できる環境を整えるため、「支える」スポーツの体制を整備し、さらに地元で活動するスポーツチームを地域で支え応援することで市民の愛郷心を育てます。
- 富士山と箱根外輪山に囲まれた自然豊かなアウトドア環境を生かし、登山・ハイキングをはじめとした魅力あるアクティビティを体験できる環境整備や商品コンテンツの開発、また、ツアーや交流・体験機会の創出、アウトドアイベントの誘致や開催支援を図り、観光誘客につなげます。
- 高原都市としての御殿場の地理的な特徴を生かし、社会的なニーズも高まっていて、人がさらに幸せを感じるためのスポーツ+αのニューツーリズム（健康増進のため体を動かすこと+温泉や食による癒し、健康な人をさらに健康にするフィットネス・美容によるヘルスツーリズム等）の検証と創出を図ります。
- 2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等の大規模な国際スポーツイベントを契機としたスポーツツーリズムの推進と、事前キャンプ地の誘致活動及びスポーツ交流と地域活性化に取り組みます。
- 「観る」「する」「支える」それぞれの立場によるスポーツとツーリズムの融合を図り、本市の地域性を生かした観光誘客を進めます。また、スポーツツーリズム推進のための人材育成や受け入れ体制の整備等を検討し、情報発信を強化します。

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. スポーツによる体験型観光の創出(民間スポーツ施設の利用促進と公共スポーツ施設を活用した誘客促進)	①ゴルフ振興の推進(御殿場小山ゴルフ振興事業の推進、ゴルフを生かした観光まちづくりの推進等)	◎		○	○
	②乗馬施設、キャンプ場、スポーツフィッシング施設の利用促進	◎		○	○
	③御殿場高原時之栖のサッカーやラグビー施設の利用促進や大会誘致	◎		○	○
	④ナショナルトレーニングセンター等の公共スポーツ施設を活用した大会誘致(馬術・スポーツセンター等)	○			◎
	⑤スポーツ合宿の誘致や国内外のスポーツ交流の推進(トレーニングの合宿拠点としての可能性の検討等)	◎		○	○
2. 観る・支えるスポーツによる誘客促進	①三井住友VISA太平洋マスターズ御殿場協力会事業の推進	○		○	◎
	②モータースポーツ関連企業との連携(富士スピードウェイ等)	◎			○
	③御殿場で活動するスポーツチームの支援(JFAアカデミー福島等)	○		○	◎
3. アウトドアアクティビティによる誘客促進	①アウトドアイベントの誘致、開催、支援(ACO CHILL、マウントフジトレイルステーション等)	◎	○	○	◎
	②自然を生かしたアウトドアアクティビティ体験メニューの創出(登山、ハイキングツアーやトレイルランニング、クロスカントリー、マウンテンバイク等)	◎	○	○	○
4. スポーツ+αの新たなニューツーリズムの創出	①健康増進のためのスポーツ+ヘルスツーリズム等の検証	○	○		◎
	②スポーツ施設と温泉施設との連携	◎			○

5. 大規模国際スポーツイベントを生かした取り組み	① 2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ誘致	○	○	○	◎
6. 地域性を生かしたスポーツツーリズムの推進	① 人材育成と受け入れ体制の整備の検討 ② 御殿場のスポーツツーリズム情報の発信強化	○	○		◎



ACO CHILL



市内ゴルフ場

## 施策1-⑥【産業間連携戦略】他産業との連携

### 【展開の方向性】

- 本市の工業、商業、農業等の他産業の強みを生かし、産業観光の可能性を探ります。産業施設の見学や体験による誘客活動だけでなく、特産品の開発にも結びつくような取り組みを進めます。
- 景勝地や観光施設を巡るだけでなく、訪れた地域の食や文化、産業、まちなか等、地域全般を楽しむような観光志向も高まる中、このような観光ニーズに対応していくために、観光関連事業者だけでなく、地域内の様々な事業者や団体等が関わり、連携して多様な魅力づくりを進めます。また、地域内の各種の事業者等の連携強化により、地域の経済活動や地域活動等の活性化を促進します。
- 本市は良好な自然資源が豊富であり、首都圏にも比較的近い立地特性から、農山村地域の多様な資源を活用した、来訪者との交流を図るグリーンツーリズムや、旅を通じて地域の自然環境に親しみ、環境保全の重要性を理解することをテーマとしたエコツーリズムの展開について検討します。
- 市民農園や体験農場等の施設整備と、魅力的なプログラムの開発や支援体制の整備を促進するとともに、クライנגルテン（小屋つき滞在型市民農園）の整備に向けての可能性の調査等、御殿場の一つの旅行形態となるような取り組みを検討します。
- 民間の保養所や研修所との連携を促進し、利用状況を調査、把握したうえで、観光客が有効的に活用できる方法の検討を進めます。
- 本市の農産品を生かした地産地消の取り組みを進めます。農産品のブランド化を進め、それらを生かした加工品や地域独自メニューの開発を進めます。

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 産業観光の推進	①モデルルートの検討、PR(工場見学ツアー等)	◎			○
	②協力企業との連携強化及び新たに協力可能な企業の発掘	○			◎
	③自衛隊との連携、富士山樹空の森の利活用促進	◎			○
2. グリーンツーリズム、エコツーリズムの推進	①既存のプログラムの充実と、新たなプログラムの開発に向けての検討	○		○	◎
	②プログラムの推進体制の充実(協力可能な農業者・団体等)	○		○	◎
3. 市民農園・体験農場等の整備推進	①市民農園や体験農場等の施設整備	○		◎	○
	②クラインガルテンの整備に向けての検討及び関係機関との調整	○		○	◎
4. 民間の保養所や研修所との連携	①観光客の利用に向けた、利用状況の調査や施設側との連携促進	◎			
5. 地産地消の促進	①推進体制の整備(飲食店と農家の連携等)	◎		○	○
	②地産地消を実践している店舗等のPR促進	◎		○	○
	③地域食材を生かした食ブランドの確立、地域独自メニューの検討	◎		○	○

## 施策 1-⑦【新規資源戦略】新規の観光資源の発掘・創出

### 【展開の方向性】

- 東山・二の岡地区は、明治22年の東海道線御殿場駅開設以降、数多くの著名人や外国人の別荘地として栄えました。現代においても、映画等多数のメディアの撮影場所となっていると同時に、御東原循環線の桜並木をはじめ複数の観光資源が集中する地区でもあり、自然景観だけでなく歴史的、文化的な価値のある地区として景観整備重点地区として選定されています。御殿場の自然、歴史、文化の遺産である東山・二の岡地区を有効活用し、観光資源としての開発を進めます。
- 豊富な植生を有する富士山樹空の森や秩父宮記念公園をはじめ、高根地区や富士岡地区を中心とした菜の花、東山湖や平和公園の椿や桜、国道138号のアジサイロード、原里バラ園や陸上自衛隊東富士演習場のススキ原、富士山スカイラインの紅葉といった、四季折々の植物を鑑賞するための環境の整備や関連イベントを展開します。
- 団地間連絡道路等の桜・紅葉の植栽や、富士岡地区で実施している富士山の眺望を生かした森林整備事業等を御殿場の新たな景勝地としてPRします。
- 近年の健康志向や自然志向の需要に対応するため、ハイキングコースやウォーキングコースの整備を進めるとともに、温泉や食事等の保養資源を相乗的に活用して、富士山の麓で英気を養う観光（ヘルスツーリズム等）を提案します。また、交通事業者や旅行事業者、関連団体、地域と連携することで、ゴルフや乗馬等の新しい内容を検討し、観光形態のさらなる多角化、充実化を目指します。
- 本市の市名は、江戸時代に徳川家康が御殿を造営するように命じたといういわれに由来します。本市はこの他にも、東海道や馬車鉄道、SLなど、特有な歴史を持ち、また長い年月をかけて濾過された富士山の伏流水を使った御殿場みくりやそばやごてんばこしひかり、水かけ菜、ウイスキーなど、様々な文化を育んできました。このような本市の独自性に焦点を当てた、御殿場の歴史探訪をテーマとした観光を開拓します。

## 【具体的施策】

施策	内容 (例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 東山・二の岡地区の有効活用	①地域との連携促進 (東山区、二の岡区)	◎		◎	○
	②施設や環境の整備 (歩道の修繕、周辺の清掃 等)	○		◎	○
	③歴史や文化に関する情報のとりまとめと効果的な広報	◎		◎	○
	④東山路観光協議会との連携			◎	◎
2. 四季の植生を生かした観光まちづくりの推進	①既存の植生や施設等の有効活用	◎		○	○
	②植生鑑賞のおすすめの季節と場所、鑑賞場所等の情報の整理、提供	◎		◎	○
	③団地間連絡道路等の植栽や森林整備事業等の新たな景勝地のPR			○	◎
3. 英気を養う観光 (ヘルスツーリズム等) の促進	①ハイキングコース、ウォーキングコースの整備			○	◎
	②保養を目的とした統一感ある温泉や食事等の提案	◎		○	○
	③交通事業者や旅行事業者、関連団体、地域との連携	◎		○	○
4. 御殿場の歴史探訪による観光の開拓	①御殿場の歴史に触れられる観光資源の発掘、整理	◎		◎	○
	②観光資源と関連する周辺環境の整備 (駐車場、案内看板 等)	◎		○	○
	③人材の受け入れ体制の整備 (運営スタッフ、案内ガイド 等)	◎		◎	○

施策2-①【周辺都市との連携戦略】広域連携の推進

【展開の方向性】

- 周辺市町村等との観光資源の情報共有や連携強化を図りながら、双方の利益や有効性、相乗効果等を考慮した協調的な施策を推進し、本市及び周辺市町村を含む箱根エリア、富士五湖エリア、伊豆エリア等の広いエリアが目的地となるような観光誘客を進め、情報や地場産品の集積を図る等、広域観光エリアでの誘客や周遊を促進する取り組みを進めます。
- 「富士地区観光協議会」、「富士箱根伊豆国際観光テーマ地区協議会」、「表富士観光キャラバン」等の既存の広域連携組織との連携強化を図るとともに、「国道138号沿線広域観光連携協議会」等、県境をまたぐ箱根エリア、富士五湖エリアの市町村との連携施策をさらに進めます。
- 観光連携協定を結ぶ浜松市、観光交流協定を結ぶ熱海市・伊豆市との連携による強化を図り、広域エリアでの周遊ルートの提案やネットワーク化、各都市間の協調的な情報提供などの施策展開を進めます。特に増加傾向にある外国人観光客について、国際化に向けたより一層の受け入れ環境の整備や周遊ルートの形成等を広域連携の中で推進を図ります。
- 観光コンベンションの誘致強化を図るため、静岡県東部地域コンベンションビューローと連携し、県東部から伊豆地域までを含めた広域エリアにおける観光資源の活用、人の交流、情報の交換を促進します。



御殿場プレミアム・アウトレット



御殿場高原時之栖

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 広範囲の市町村との相互連携強化	①広域連携組織の活性化と連携強化(表富士観光キャラバン、国道138号沿線広域観光連携協議会、富士地区観光協議会、富士箱根伊豆国際観光テーマ地区協議会等)	◎	○		◎
	②観光連携協定都市(浜松市)、観光交流協定都市(熱海市・伊豆市)との連携強化	○		○	◎
	③新たな枠組みの広域連携体制づくりの検討		○		◎
2. 広域連携施策の推進	①広域観光周遊ルートの形成(テーマ性、ストーリー性のある観光地のネットワーク化、昇龍道プロジェクト※1)等との連携	◎			◎
	②広域エリアでのPRの強化(相互情報発信やサイン整備等)	◎		○	○
3. 観光コンベンションの誘致強化	①静岡県東部地域コンベンションビューローとの連携強化				◎

※1 昇龍道プロジェクト…中部運輸局、北陸信越運輸局及び中部広域観光推進協議会が、中部北陸9県(長野・石川・富山・福井・静岡・愛知・三重・岐阜・滋賀)の自治体、観光関係団体、観光事業者等と協働で中部北陸圏の知名度向上を図り、海外からのインバウンドを推進するために取り組んでいるプロジェクト

## 施策2-②【滞留型観光戦略】観光資源のネットワーク形成

### 【展開の方向性】

- 御殿場プレミアム・アウトレット、御殿場高原時之栖は、年間を通じた重要な誘客拠点となっていることから、これらの誘客拠点とその他の観光施設との連携を促進し、多くの来訪者が他の御殿場の魅力に触れ楽しむ機会を提供する周遊観光を促進する施策に取り組みます。特に、アウトレット内にある御殿場コミュニケーションコーナーにおける観光案内をさらに充実させ、市内観光への周遊を促進します。
- 富士山の恵みや魅力の集まる富士山樹空の森や、景観整備重点地区に指定されている東山・二の岡地区等の拠点施設・エリアについて、各施設や地域と連携して周遊を促進し、相互に魅力を発信することで誘客力の向上を図ります。
- 観光客の移動において利便性を確保するバス連絡網等の交通基盤の整備とともに、産業観光をはじめとする新たな観光メニュー等、他産業も含めた事業者間、施設間の連携による魅力的な周遊提案やPRなどの検討を進めます。

### 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 誘客拠点を活用した周遊促進と情報発信	①誘客拠点を中心とした周遊モデルコースの提案(季節限定モデル、観光志向別モデル等)	◎		○	○
	②誘客拠点と連携した情報発信(コミュニケーションコーナー、関連施設の有効活用等)	◎		○	○
2. 各観光施設の誘客力向上と周遊促進	①個別の施設の整備や広報の充実(富士山樹空の森、秩父宮記念公園等)	◎		○	
	②情報の提供・共有、PRの強化(交流の場の設置、共同イベントの実施等)	◎		○	○
	③周遊利用の促進策の導入(特典サービス、共通利用クーポン等)	◎			○
3. 各観光施設への移手段の確保	①既存路線バスの利活用促進(既存路線バスの活用によって観光施設に連絡できることのPR)	◎			○
	②施設循環バスの整備計画・運行の実施(観光ルートの作成、効果的な周遊の検討等)	◎			○

## 施策 2-③【御殿場の魅力発信戦略】 観光・地域情報の収集・発信機能の強化

### 【展開の方向性】

- 御殿場の魅力ある地域資源は、磨き上げれば観光に活用できるものが数多くあるため、そうした地元の人しか知らない御殿場ならではの資源を市民自らが見つけ、情報を集約する仕組みを作る必要があります。そのためにも市民からの情報の提供や来訪者からの新たな魅力の投稿など、幅広い情報収集手法により御殿場の魅力の情報の収集、整理（データベース化）を進めます。
- 既に訪れている多くの観光客が他の施設や地域にも立ち寄ってもらうために、旬の情報や観光客の感性に訴えるモデルコース等の観光情報の発信に努め、情報コンテンツの充実を図ります。また、関係機関や団体間での情報の共有化を進めます。
- 本市へのアクセスが良く、多くの来訪者が見込める首都圏を中心とし、ターゲットを明確に定め、最適な伝達手段を選択して広報戦略、プロモーション活動の強化を進めます。さらに、情報発信機能の強化を図るため、本市や観光協会のホームページを御殿場の観光情報全般の窓口として、利用者が見やすく使いやすいものに常に改善し、御殿場の魅力を発信する観光情報ポータルサイトを確立します。
- 個人ブログやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等での利用者による口コミ情報が果たす役割や影響力は大変大きいことから、口コミ情報等の利用者評価をサービス改善に役立てるなどの活用を進めます。また、インターネットや携帯電話等、場所や時間に制約されずにいつでもどこでも情報が入手できる環境が進化していく中で、その技術進化に対応し、観光客のニーズに応じた情報発信の充実を努めます。その他、インターネット、新聞、テレビ、雑誌、ラジオ等のメディアや、観光親善大使を活用した効果的、戦略的なプロモーションを展開します。
- 御殿場ならではの地域資源を活用したプロモーション動画やポスター等の宣伝媒体によるイメージアップ施策の展開により、広く御殿場の魅力を発信します。また、御殿場のイメージアップを図るため、映画やテレビのロケを誘致するフィルムコミッションの取り組みを促進し、交流人口の増加につなげます。
- 多様化する観光ニーズに対応し、新たな広域交通網の整備による観光客の流れ、動向を的確に把握することが求められる中、観光動向調査、満足度調査、マーケティング調査等、各種観光施策を構築するために必要な調査を実施し、観光客の意識について継続的に把握、分析を進めます。また、それらの分析データは、観光関連事業者や市民に対する意識啓発の材料として積極的に活用します。

### ■御殿場観光親善大使

芹澤信雄さん（プロゴルファー）、宮本勝昌さん（プロゴルファー）

天沼知恵子さん（プロゴルファー）、勝俣州和さん（タレント）

トータルテンボス（お笑いタレント）、手塚翔太さん（プロウェイクボーダー）

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 御殿場の魅力の情報収集	①市民からの提供や来訪者の投稿による情報の収集	○		○	◎
	②情報の整理(データベース化)	○			◎
2. 情報発信・プロモーション活動の強化	①観光情報サイトの確立と充実(ポータル機能の充実、旬な情報や志向に訴える情報の提供、季節感のある演出の工夫等)	◎			◎
	②効果的なツール等の活用(新聞、テレビ、雑誌、ラジオ等のメディア、観光親善大使等)	◎			◎
	③個人ブログやSNS等の口コミによる情報発信の拡散	○		◎	○
	④効果的なプロモーション活動の実施(特定のターゲットにPR可能な集客イベントへの出展等)	◎			◎
3. 御殿場のイメージアップ施策の推進	①魅力あるプロモーション動画やポスター等によるイメージアップ施策の実施	○		○	◎
	②フィルムコミッションの促進	◎			○
4. 継続的な観光客ニーズの把握	①定期的調査の実施と事業への反映	○	○		◎
	②関係機関・団体との情報共有	○			◎



富士山太鼓まつり



御殿場わらじ祭り(供養祭)

施策3-①【おもてなし戦略】「ともに楽しむ心」と「おもてなしの心」の育成

【展開の方向性】

- 本市への来訪者が、居心地の良いまち、また来たいまちであると感じるためには、市民のおもてなしの意識の高まりが重要になります。そのため、市民が御殿場への愛郷心や誇りを持ち、それらを来訪者へのおもてなしにつなげられる心の醸成と雰囲気づくりを進めます。
- 来訪者が知りたいことを正確に知ることができ、観光に限らず御殿場で過ごす時間の中での困りごと等に応えられる仕組みづくりを進めます。
- 来訪者の目的ごとに異なるニーズについて、適切な受け入れのおもてなしが実践できるよう来訪者に優しいおもてなしの実践に努めます。
- 来訪者と市民と一緒に御殿場を体感し、思い出を印象深く刻むことができるよう、イベント等を通して独自の歴史、文化、風習に触れ、富士山に抱かれた本市の魅力を体感できる機会を創出します。

【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. おもてなしを知り、実践する機会の創出	①おもてなしを実践する団体相互の連携強化(情報交換、活動報告、連絡会の設置等)	◎	○	○	○
	②おもてなし実践の受け皿となる組織づくりと団体の育成(民間取り組み事例の紹介や体験機会の創出、ボランティア組織の育成等)	◎		○	○
	③富士山を核とした歓迎ムードづくり(ゴミ拾い、あいさつ運動、ボランティア参加機会の増加等)	○		◎	○
2. 地域の魅力と触れ合う機会の創出	①市民がまちの魅力を知る機会の拡大(御殿場の文化、歴史、風習を知る機会の創出等)	○	○	◎	○
	②子ども世代から世界遺産である富士山、御殿場を知る機会の創出		○	◎	○
	③来訪者が富士山と御殿場を知る機会の創出	◎	○	○	○
	④来訪者と市民が参加するイベントづくり	◎		◎	○



外国人観光客への観光案内

## 施策3-②【人材育成戦略】観光推進組織と人材の育成

### 【展開の方向性】

- 新たな観光誘客を立案、推進する豊富な知識経験を持った人の集まる組織を作ると同時に、誘客を担うことができる人材を育成します。
  
- 観光誘客につながる活動を行っている組織やボランティアを支援し、組織の枠を越えた連携による誘客を促進します。
  
- 観光振興事業に参加したいという市民の力を有効に生かすために、ボランティアとして気軽に参加できる受け皿づくりを進め、併せて既存の組織を育てることにより、新たに参加する人材を発掘します。

### 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 観光誘客組織と人材の育成	①誘客を推進する組織の活動支援、新規設立	◎		○	○
	②知識経験者からのアドバイスを誘客の実践につなげる仕組みづくり	◎	○	○	
	③誘客につながる取り組みを実践している組織と連携した次世代人材の育成	○		◎	○
2. ボランティアの育成	①学生ボランティアの受け皿づくり(イベントでのボランティア証明の発行等)	○	○	◎	○
	②外国人対応ボランティアの育成(在日外国人、国際交流協会との連携、通訳ボランティア等)	○	○	◎	
	③ボランティア組織の育成支援	○	○	◎	○
	④国際交流協会、市民活動支援センター等との連携	○		◎	○

### 施策3-③【インバウンド戦略】海外からの誘客の推進

#### 【展開の方向性】

- 外国人観光客は近年増加傾向にある中、2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、さらに増加することが予想されます。外国人観光客が快適に観光できるように、駅や主要道路をはじめ、施設やパンフレット等の外国語による案内表記を充実させ、受け入れ体制の向上を進めます。また、諸外国から来る様々な文化を持った外国人観光客に対応できるよう、施設の整備を検討します。
- 現地でのリアルタイムの情報発信は非常に効果的なものであるため、各施設における無料Wi-Fiなどの公衆無線LAN等の環境の整備を促進します。また、民間ボランティアを活用し、外国語によるその場での案内も充実させます。
- 多くの外国人観光客が本市に立ち寄っている現状を踏まえながら、さらなる誘客を促進するため、ポータルサイトの多言語化や魅力的な紹介映像の作成等、情報発信の充実を進めます。また、現在の観光の中心である団体ツアーだけでなく、増加傾向にある個人ツアーへの提案の強化や、富士山の眺望や地域の食材を生かした御殿場らしさを強調したツアーの提案等、多様な提案を検討します。
- 外国人観光客の中でも、アジア圏からの外国人観光客は日本を繰り返し訪れているリピーターが多い傾向にあります。そのような外国人観光客を御殿場のリピーターにできるよう、現地企業との連携や、海外へのプロモーションの推進等の可能性を検討します。
- 市民が外国人観光客と触れ合い、相互に理解を深め合うことは、地域の国際化や活性化にも大きな効果が期待されることから、市民と外国人観光客が交流できる機会を創出します。
- 外国人観光客の増加は全国的な傾向であり、国や県でも情報の把握や分析、対応等に力を入れています。本市においても情報戦略は喫緊かつ重要な課題であることから、国や県、その他関係団体と協力して情報の収集を進めます。

## 【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. 受け入れ体制の整備	①外国語サインの整備(英語及び中国語、韓国語の併記 等)	○			◎
	②外国語インフォメーションの充実(外国語パンフレット、外国語メニュー 等)	◎			○
	③通信環境の整備(公衆無線LAN 等)	◎			○
	④市内施設への研修機会の創出(受け入れに対する意識の向上、応対、免税等の研修等)	○			◎
	⑤外国語による案内(民間ボランティアの活用 等)	○		◎	○
	⑥様々な文化や慣習のある外国人観光客への対応	◎			○
2. 外国人観光客への提案	①英語版観光ポータルサイトの見直し、アジア各国語版の案内充実の検討	○			◎
	②紹介PR映像の作成(WE Bを活用した動画による魅力発信 等)	○		○	◎
	③現地メディアやツアー会社等との連携(メディアの活用・協力、商品開発 等)	◎	○		○
	④海外市場へのプロモーションの推進(主に東南アジア地域での観光展への出展 等)	◎			○
	⑤外国人との交流機会の創出(外国人観光客が気軽に参加できるイベント内容の開発等)	○	○	◎	○
3. ニーズの把握	①富士箱根伊豆国際観光テーマ地区静岡県協議会や静岡県東部地域コンベンションビューローとの連携強化、情報の共有	○			◎
	②J N T O (※2) 等を活用した、ニーズの把握、ターゲットの絞り込み	○			◎

※2 J N T O…国際観光振興機構。通称：日本政府観光局

Japan National Tourism Organization の略

### 施策3-④【観光地環境充実戦略】 観光地としての環境整備

#### 【展開の方向性】

- 来訪者が快適に観光を楽しめるサインの整備を進め、新たに開通する道路への対応も順次行います。観光サインのみならず、各地域が主体となって身近な景観や環境の美化活動を進め、来訪者だけでなく市民生活の快適性向上へつなげられるよう連携を図ります。
- 新東名高速道路（仮称）御殿場インターチェンジ開設に伴い、地域活性化に向けた取り組みや観光ハブ都市化への貢献が期待されます。自然環境に配慮しつつ、インターチェンジ周辺で6次産業化や観光関連施設などの整備に向けた検討をします。
- 滞留型観光の促進に向け、既存の宿泊施設との連携を図るとともに、新たな宿泊施設の誘致を検討します。
- 近年、来訪者の交通手段は自家用車、公共交通機関に加え、サイクリングなども増加しています。オリンピックの自転車競技が県内で実施されることが決定するなど、サイクリングへの関心は高まっています。来訪者の利便性の向上を目指し、サイクリングルートの設定や、トイレ、駐車場等の整備、ルート上で利用できる施設に関する情報の整理、提供を進めます。
- 高齢者や障害がある人、子ども連れ、または外国人来訪者の安全性や利便性を向上させるため、ユニバーサルデザインのさらなる普及に取り組みます。また、より一層の安全性や利便性を確保するため、定期的な情報収集や設備の確認作業を行い、来訪者が安心して観光できるように環境を整備します。
- グローバル化による海外旅行の日常化やLCC（※3）の拡大による低価格での航空機利用の一般化、国内での交通の利便性向上等により、本市への来訪者は年々増加しています。海外から国内からを問わず、来訪者が「御殿場を訪れた」という印象を持つことができ、同時に記憶に残るような、本市ならではの建造物や構築物（マンホールや街灯、フェンス等）の設置を検討します。

※3 LCC…効率的な運営により低価格の運賃で運航サービスを提供する航空会社。  
Low Cost Carrierの略。



平和公園

【具体的施策】

施策	内容(例示)	関係する主体			
		産	学	民	公
1. ハード面における観光地環境の整備	①観光サインの整備(広域での道路案内表示の共通化、デザインの統一 等)	○			◎
	②来訪者が利用できるトイレや駐車場、休憩所の整備(サイクルステーション 等)	◎			◎
	③景観、環境美化活動の促進(街路樹の剪定、道路の清掃、草花の植栽 等)	○		◎	○
	④新規道路への観光サインの設置(新東名高速道路、国道138号バイパス、団地間連絡道路 等)	○			◎
	⑤景観に適した滞留型観光促進につながる施設整備の検討	◎			◎
	⑥既存の宿泊施設との連携及び新たな宿泊施設(温泉付き施設を含む)の誘致の検討	◎			○
2. ソフト面における観光地環境の整備	①利用できるトイレや駐車場、休憩所等の情報の収集、整理	◎			◎
	②協力施設の拡大(コンビニ、飲食店 等)	◎			◎
	③情報発信体制の整備(マップの作成、インターネットへの公開 等)	◎			◎
3. ユニバーサルデザインによる観光地づくり	①施設のユニバーサルデザイン化の促進(多言語表記、バリアフリー化 等)	◎			○
	②駅前の利便性の向上(案内標識の整備、交通手段の充実 等)	◎			◎
	③定期的な情報収集と設備の確認作業	◎			◎
4. 御殿場らしい建造物や構築物の設置	①デザインや設置場所等の検討	○			◎
	②建造物や構築物の設置や管理	○		○	◎
	③情報の発信(紙面での紹介、インターネットへの公開 等)	○		○	◎

## 8 計画の推進体制

### 御殿場の観光振興における役割分担

○御殿場の観光振興の推進にあたっては、観光産業の担い手である観光関連事業者、関係する有識者・専門家、地域づくりの主体となる市民、市（行政）がそれぞれの役割を果たしながら、相互に連携し施策を進めます。

○各主体が担うべき役割を整理し、官民一体となって観光振興を進めます。

#### ■ 産（商工団体、観光協会、交通事業者、旅行事業者、施設事業者、企業、個人商店、農協等）

○観光地としてのイメージアップ、ホスピタリティを高める最前線として中心的な役割を担っていきます。

○経営基盤の安定と充実を図りながら、質の高いサービスを提供できる人材の育成と確保を進めます。

○新たなニーズに対応する観光商品の企画や販路拡大、誘客活動を積極的に進めます。

○地域の良好な景観や環境の保全、創出に留意しつつ、市、関連団体等と連携しながら、魅力ある観光地の整備や来訪者の利便性の確保に努めます。

○観光協会は、既存の観光関連団体を束ねるコーディネーターとしての機能を高めながら、御殿場の観光振興におけるリーダーシップを発揮していきます。市や関係団体等の情報を包括的に把握し共有化を図り、関係各所と協働しながら、総合的な観光案内や情報発信などの事業を推進していきます。また、組織の強化、拡充を進めます。

#### ■ 学（専門研究機関、有識者、専門家等）

○観光部門の分析や計画（観光戦略プラン）の見直しに関する助言など、市が行う調査や計画づくりに対する支援、協力を努めます。

○関連事業者が取り組む商品開発や市民等が取り組むまちなみ形成など、観光振興（観光まちづくり）に関わるさまざまな活動に対して、それぞれの専門の立場から支援、協力を努めます。

○市が定期的で開催する観光懇話会にて、当市の観光振興に関する課題やテーマに対して必要な助言、支援に努めます。

## ■ 民（市民、NPO法人、ボランティア団体等）

○市民一人ひとりが、御殿場の自然風土や歴史文化に対する知識を深め、地域に誇りと愛着を持ち、地域づくりに積極的に参加していくとともに、地域の魅力を多くの人に伝えます。また、地域の良好な景観や環境の保全・創出に努めます。

○市民一人ひとりが、観光振興や地域の魅力づくりの一端を担っているという自覚を持ち、観光客をおもてなしの心で暖かく迎えるとともに、来訪者との交流を深めます。また、観光ボランティアなど、さまざまな形で観光まちづくりへの参画に努めます。

## ■ 公（市、近隣自治体等）

○地域の良好な景観や環境の保全・創出に留意しながら、地域の特性を生かした魅力ある観光まちづくりを進めていきます。御殿場全般の魅力の広く内外に発信するとともに、効果的な観光振興施策を推進します。また、計画（戦略プラン）の管理、フォローアップを図ります。

○地域の観光関連事業者、団体、市民の取り組みに対して支援を行います。また、各種市民団体、NPO法人、ボランティア団体等との連携や協働を推進します。

○的確な観光動向の情報を収集、分析し、関係各所と情報を共有し施策の改善、見直しを図ります。

○近隣市町との連携や観光連携協定都市（浜松市）、観光交流協定都市（熱海市・伊豆市）との連携を強化し、広域的な観光施策の展開に努めます。